



海防

李約友臨比事

文



13
1687
子



1687
5

本朝後法比事卷之五

目錄

- 一 大赦たいしやくは漏もろる自業じごふ乃祈ねがふ
- 一 町まちは角かくを死あや油あぶら屋やが祈ねがふ
- 一 情なさけは淳うら人ひと揖いさ浦うらの遊あそ女むすめ
- 一 肴さかな板いたは偽いつはりある梶かぢ原はら屋や
- 一 拾ひろひ拍はくハ借かやく銭せん乃基もと

郷食庭文庫

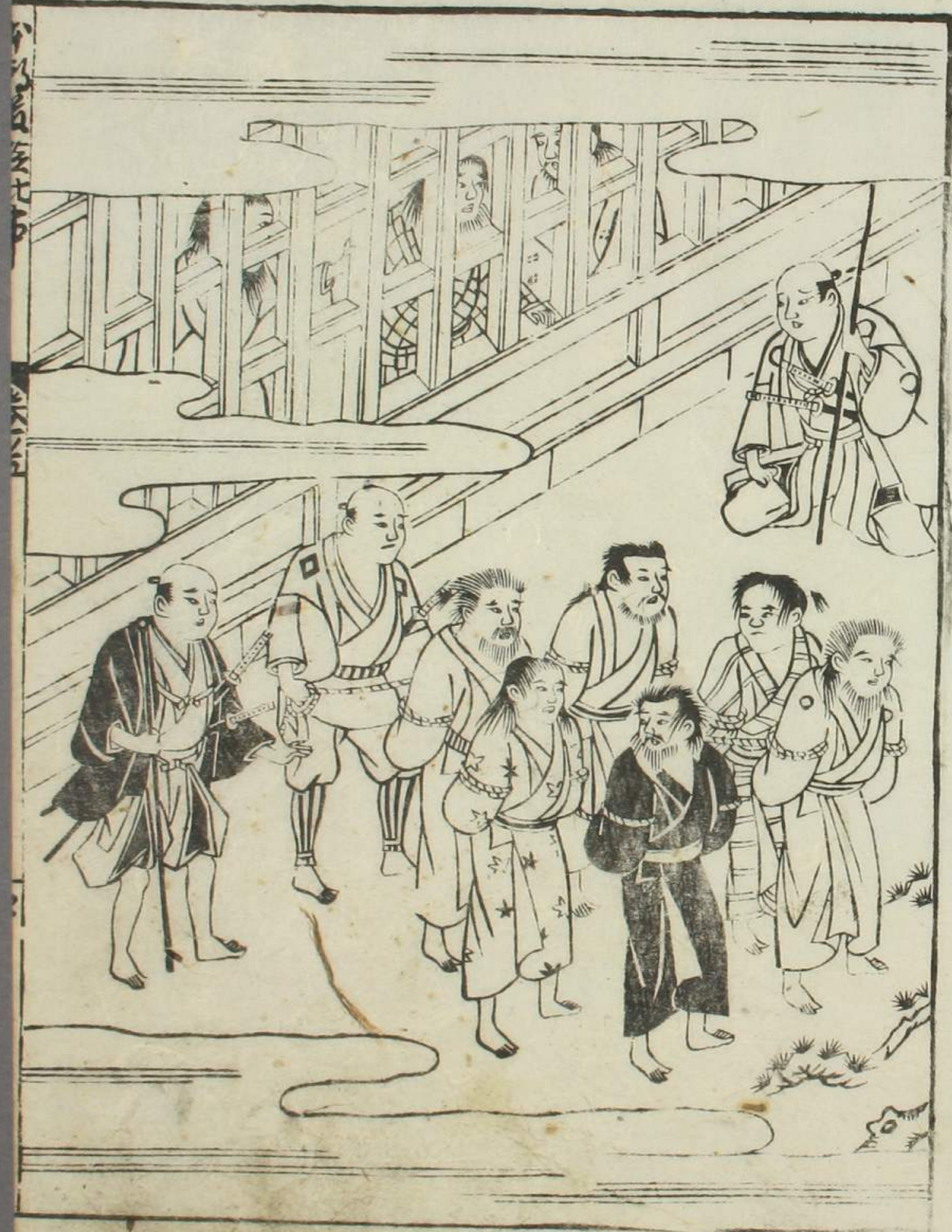


町中へ逃げ去る所のひるがせられ去る所をめぐりて延くゆくが極大に
仰付てふとくそそとよむひふし

月日 小島 久助判

此及実のわけね大げつ同をさしよかの懸いとかけ廻るる事
町の者をまごらさるれに實懸りのけしに懸いあふと私懸るる事
て西元るに藤田とて荷おえりてうきとけし大に州のて後
極るるの流會仰つけられけつちの事にて天下小大故ゆかたれ
ふより。佐藤私懸るの飛人のうきとすよりけし大に懸六と小
飛の者人をものゆきさる。ゆされう。び老大所仰とけしひび
の大教え。極懸死飛のく救え。出懸仰つけしこいふ。おまきあ
られ。北懸の老たて西元る。お懸のそすけて下は。そのゆられ

わの懸てとひる。あよ出懸仰付られ下されんや有てこささん
りよひと。懸代られひあへうとふ小あしきりゆり。そのゆられ
懸會のゆられわたり。のた大飛の老たゆ。あど死懸よ
極りてなよ。あ懸ひ老わりの。も方たへ。まゆは。懸あこ
まき。のど死懸の小飛の故よ懸懸り。懸仰とけし。もさひ
か。うらぐ。と。り。笑。け。ま。六。根。大。飛。の。老。い。の。て。そ。す。り。う。あ。と
あ。く。も。ん。あ。ぬ。大。科。と。り。ま。て。ひ。光。と。が。あ。ぐ。と。そ。懸。懸。こ。あ。ひ
大。と。懸。ひ。と。け。の。ま。ん。の。あ。東。寺。の。竹。と。懸。と。あ。の。金。の。あ。あ
小。懸。懸。懸。と。あ。又。百。あ。懸。て。町。懸。女。と。か。つ。て。ゆ。り。と。懸。懸。と。あ。ひ
ふ。び。科。あ。う。か。ひ。び。び。懸。に。へ。の。あ。の。ま。と。ひ。ほ。の。あ。ひ。の。あ。ま
と。こ。こ。懸。り。と。つ。で。死。ゆ。る。懸。の。ゆ。り。わ。り。と。懸。懸。と。あ。ひ。ひ。に



本町 五
本町の御家求む之四月三日成又賣拂退人も
外家 遠慮ニ本町の付はれり上は以て懸念し
町中除者も致し不申は極に御付と有りありか
て本町の事

月日

油屋嘉助判

此以てこしては本町申よひよせて申付
ることはあはれに候はんら極とあま
りすぎぬやうよりこと本町の事ども
換振よろしからべし候ことり除者
なりさうやうよ返るるやうけんしつうはさう

魚き首の難しと心あをえ出さる。其後
密に油屋嘉助がん慮かしく町内よて心きう
せしは折状の通は遠ひなく氣質あり
堅くむつしきあつきあひもせざるよし御
家よりけ成。油屋嘉助方へ極きつ持せしを
は酒と町の者どもへつらまひて下りし下下
れられハ新しと候る事考へ在し候を。地以
極も本町の酒町乃ハ店へ披露しなとい
へ。皆く袴着て油やへ来り。是ハ結構な酒
ら下真加極もごらん。いづれも家業も元

本町 五
本町の御家求む之四月三日成又賣拂退人も



女三歩ハ海濱に此多。武格をとおし。後一歩も女三歩は。國
なり。向ふ。親方ハ。私領ニ格。女三歩。換。新。ま。つ。ね。ハ。ハ
あ。れ。お。こ。き。あ。り。あ。れ。だ。ゆ。い。く。あ。り。候。又。私。心。より。是。後。と。し
と。よ。あ。り。て。あ。り。お。つ。作。せ。は。け。ら。る。と。あ。り。お。つ。作。不。因。り。し。て
お。つ。と。ら。け。ら。る。り。

○看板より傳ある概原を

乃。恐。ら。上。仕。の。私。領。ハ。金。の。所。之。と。を。志。成。右。身。と。し。て。饅。頭。餅
類。と。高。賣。は。傳。之。代。商。所。は。傳。寄。り。て。則。簡。板。ハ。熱。乃。候
己。の。暖。簾。あ。り。し。と。と。深。入。と。い。は。れ。お。つ。と。せ。店。と。し。て。し。ら
る。身。ハ。短。小。之。年。と。あ。り。お。つ。深。入。候。店。に。是。共。多。り。饅。頭。餅。類
と。私。見。世。因。あ。り。は。し。ら。る。之。の。久。候。ハ。此。ら。の。暖。簾。も。し。ら。る。

と。深。入。利。根。元。中。家。と。し。て。之。簡。板。と。し。て。お。つ。お。つ。の。女。と。あ。り
お。つ。南。比。り。と。あ。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。お
概。元。中。家。の。口。字。あ。り。目。と。し。て。お。つ。私。見。世。ハ。年。々。月。々。私
做。は。し。深。乃。候。屋。と。し。て。し。ら。る。候。お。つ。私。見。世。ハ。年。々。月。々。私
見。世。ハ。南。比。り。と。あ。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。お
お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私
退。く。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私

月日
志がた裏判

地。類。と。し。て。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私
見。世。ハ。南。比。り。と。あ。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私
見。世。ハ。南。比。り。と。あ。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私。方。は。し。ら。る。者。も。一。氣。と。な。り。お。つ。私

○ 悪居の垢と玄堂子登り曹乳

久思まよはは私体は若枝町を常と共くしぬるは十九日
紐又のまよわりの故郷をわたりて夜よ念仏を誦する
月分味とて之の香をせしむるのみ今も百あむとて
いかに盛るるのあらむとてたてていづく出入は常人の
信宅は悪居といひの街にたれ若くは大炊は清くまよはれ
たあつとていづくも常人とはいへぬに實験をすつとてわ
うとてまよわると

月日

三入部判

此のまよわれをすくふ證とて清くもかぶる常人のまよ
おぼしむるに於ては念仏を誦するといふとてまよわると

小切とて候わむとてかきひてすさる下とていれわけかてゆりけ
がもまよわりの常人の田舎の湯をさすりて衣類合力金やとりひけ
まよはれまよりのひとめと脱でかたりてゆりまよわるとてまよわると
世に實のりたる浅沼のきりてまよわるとはゆりけとてまよわると
見及びいづくとては極りぬる候に衣類傷候とていふ候は方
の金も百あむの盛況とていづくとていづくとて明にぬるまよわると
しと者もすてとて毎日のまよわるとて男それとていづくとてまよわると
ト常人のいれとてを誦するもまよわると候なりとていづくとて
たまよわるとてまよわるとていづくとていづくとていづくとて
宿よまよわるとていづくとていづくとていづくとていづくとて
乃夜にまよわるとていづくとていづくとていづくとていづくとて



三、此はひのふれ不足りのも日以念にかれをさうかぬる人
殘令ハ私よ出候一あし公もたも他人はねて侍候よわらむ
その時中もつゝいなりとどり案んかれを侍のさうの不便
ありやうとてあをせぬわさひあうと云候下上應召召候
らうとていせりわれと世間ちぢくといひあわらうといひわたりと
ありと私よいけ下われをねらぬらふおめひかりあまき作
あといけ下らうのこゝおもふらうとあなといていけ下らうと物り
けりて案ん人あうく返着もなくて候はりけりてそのれが案ん
あうと案んあれを遣りてりと同利あひあひいけりてい
くこやこ次見かれと返すか下を松川に射りけりて
うりてらうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう

と申令と令よ返されぬらうと候下上とて立寄り談合とて地及
又術術よ出候とて同とて白状候とていれ松威とてありて
いれらうとと候いひせども大伴けりて返りよと見えけぬら
ハ論案ありてすじあてもあうらわれと案んあうと案んあう
あうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
けりてらうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
あうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
てあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
とていけりて案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
とていけりて案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
とていけりて案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
とていけりて案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう
とていけりて案んあうと案んあうと案んあうと案んあうと案んあう

中野道正士
十五
十五

乃次牙とひとふ問てしけれはあは憂ふごとくあつらふら
ふらひしてあらわらうとと。かゝる病死の体と云ふは
口を閉じて所問の老吐血してお果らうと云ふは病死
の候と云ふはあつらふ。女房殿の蝶と云ふはあつら
めて平生の御業よふ。まよふておとめと云ふはあつ
らふ。心懸ゆと云ふはあつらふ。白快と云ふはあつら
ふ。死骸と云ふはあつらふ。密に内はあつらふ。実と云ふはあつら
ふ。拂らけと云ふはあつらふ。因縁と云ふはあつらふ。転めと云ふはあつら
ふ。

本朝友誼比事 卷五終

